

発言通告書（総括表）

令和8年第3回定例会 代表質問

No.	発 言 者	発 言 事 項	発 言 要 旨	答弁を 求める者
1	岩佐議員 (次世代)	1, 持続可能な行財政運営について 2, 災害リスクの変化を踏まえた防災対策と自助・防災教育の充実について 3, 補助金交付における手続の標準化と適正化について 4, 住宅施策の一元化と総合的な住宅政策の推進について 5, 防犯カメラを活用した安全・安心なまちづくりについて 6, 高齢者の孤立を防ぐ見守り・場づくりについて 7, 犯罪被害者に寄り添った支援体制の整備について	業務の企画立案から管理・執行までのプロセスを検証し、人口動向を見据えた効率化とサービス向上を図る考えについて問う。 富士山噴火や気候変動に伴う大雨など、新たな災害リスクを踏まえた防災対策について考えを問う。 町会、各種団体、NPO 等に対する補助金について、統一的なフォームを導入することで、団体の事務負担軽減と区の審査・確認業務の効率化を図りつつ補助金支出の適正化につなげる仕組みについて区の見解を問う。 人口構成や住宅事情の変化を踏まえた住宅政策についてまちみらい千代田と区の役割分担や連携のあり方を整理し、より一体的・総合的に住宅施策を推進できる体制について見解を問う。 防犯カメラについて、犯罪抑止とプライバシー保護の両立、および AI カメラ活用を含めた計画的整備と地域との合意形成について問う。あわせて、皇居周辺におけるランナーと歩行者のトラブル防止等への有効活用について区の見解を問う。 単身高齢者の急増や孤立化を踏まえ、配送事業者等の民間連携の拡大やスマートリング等（ICT 技術）を活用した次世代型の見守り手法の導入および公共施設の空きスペース活用による地域交流拠点の整備や社会参加の場を創出することについて問う。 犯罪被害者やそのご遺族の負担軽減を図るため、相談窓口の充実や住居の確保等、千代田区独自の支援体制構築について区の見解を問う。	区 教 育 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第3回定例会 代表質問

No.	発 言 者	発 言 事 項	発 言 要 旨	答弁を 求める者
2	小林議員 (自民党)	1. 自治体経営の転換期と持続可能な区政運営について 2. 大型公共施設整備と将来を見据えた財政運営について 3. マンション施策と執行体制の見直しについて 4. AI 時代における教育のあり方について 5. 首都直下地震を見据えた実効性ある防災・情報通信体制について	人口減少社会、人材確保の難しさ、行政需要の複雑化、AI・DXの進展等を踏まえ、業務のあり方そのものを見直し、事業・業務の棚卸し、選択と集中、職員配置・人員再配分、成果を重視した行政運営について問う。 物価・人件費の上昇や将来の投資的経費の増大が見込まれる中、今後の公共施設整備についてライフサイクルコスト、基金・区有財産の戦略的活用、中長期的な財政見通しと事業の優先順位を問う。 また、施設整備に伴う長期間の利用休止等も見据え、整備期間中の区民サービスや必要な機能をどのように維持・確保していくのか。併せて、スポーツセンター建替えの基本工程と、整備期間中の区民利用を可能な限り維持するための代替機能の確保について問う。 マンション居住者の割合が高い千代田区として、これまでまちみらい千代田が担ってきた役割と成果を踏まえ、マンション施策を重要な基幹施策と位置づけ、区とまちみらい千代田の役割分担を改めて整理し、組織改正を含め区本体がより主体的に担う執行体制への見直しについて問う。 生成 AI が子どもたちにも急速に普及する中、区立学校におけるこれまでの実践を踏まえ AI 時代に何のために学ぶのか、発達段階に応じた AI 活用 AI に任せることと人が考えることの整理、自ら考え判断し情報を見極める力、教師の役割、教育効果の検証など今後の千代田区の教育方針を問う。 身近な防災設備、非常用電源、ドローン等の実効性ある備えとともに、通信途絶時の情報伝達、偽・誤情報への対応、Jアラートを含む緊急情報の確認・訂正、正確な情報を確実に届ける体制について問う。	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第3回定例会 代表質問

No.	発 言 者	発 言 事 項	発 言 要 旨	答弁を 求める者
3	白川議員 (自 民)	1 地域医療について ・地域医療を支えてきた診療所や歯科医院が再開発などで診療継続が困難になる懸念がある。 ・小児科や在宅医療など、地域に不可欠な医療の維持が重要。 2 医療 DX と災害医療について ・本区ではPMHや介護情報基盤への接続を進め、地域全体の医療DXを進める方針が示されている。 ・首都直下地震が発生すれば、異例の医療需要が生じる。 ・医療 DX では「医療版 BCP」の考え方が必要。 3 区民の病気予防を進めるために ・フレイル対策は、東洋医学の概念である「未病」の発想に近い。 ・予防医療では、西洋医学に基づくデータ活用と、日本が長年育ててきた東洋医学の知見を両方活用すべき。 ・蓄積した医療データの活用が予防医学のポイント。 ・国や都の施策も活用すべき。	(1)再開発や医療機関の高齢化、後継者問題などによる低下にどう対応するか。かかりつけ医機能報告の内容を、区としてどう生かすか。事業承継や移転への対応はいかに。 (2)小児科をどう確保していくのか。 (1)PMH 接続など今後の医療 DX を、情報連携の強化にどうつなげるか。 (2)首都直下地震などで医療情報を迅速に把握・共有する仕組みをどう強化するか。 (3)停電、通信障害、サイバー攻撃等でデジタルが使えなくなった場合に、医療機能を維持するためには、医療分野の BCP をどう考えるか。 (4)地域全体の医療 DX を進める観点から、いかに運用・更新費用の実態を把握し、必要な支援策を行うか。 (1)健診、国保レセプト、後期高齢者医療、介護などのデータを医療的予防にどう活用するか。 (2)高齢者に対してより積極的な「プッシュ型」の予防行政を進める考えはあるか。 (3)被用者保険加入者等について、健康保険組合・企業・医療機関と連携する仕組みを検討しているか。 (4)医療 DX を早期発見・重症化予防につなげるために、予防医療で生かせないか。 (5)病気予防に東洋医学の知見が生かせないか。 (6)超高齢社会の中でも区民が健康で、自分らしく暮らし続けられる千代田区をどうつくっていくのか。	区 長 関 係 理 事 者

発言通告書（総括表）

令和8年第3回定例会 代表質問

No.	発 言 者	発 言 事 項	発 言 要 旨	答弁を 求める者
4	えごし議員 (公 明)	令和7年度決算と来年度予算について 防災対策について ヤングケアラー支援について 子どもの近視対策と進行抑制支援について	令和7年度決算について、現状と課題をどのように分析したのか。そして今年度の事業執行や来年度の予算編成にどう反映させていくのか。また、いまだ続く物価高への対策として、今後の取組について区の考えを伺う。 ・財政運営について ・分析結果の次年度予算への反映 ・物価高対策について ・福祉避難所への直接避難について ・避難所の運営について （開設支援、ペットとの同室避難など） ・罹災証明書のオンライン申請について こども家庭庁では、より効果的な支援を展開するために必要な施策・取組について、新たな支援プランが取りまとめられた。本区として今後、どのように反映・検討していくのか伺う。 ・18歳以上の若者世代への支援 ・家庭全体への支援 など 近年では、子どもの近視の増加が世界的にも問題となっている。近視は子どもの成長期に進行しやすく、早期発見と進行を遅らせることが重要とされている。 本区の現状と課題、今後の取組について伺う。	区 長 教 育 長 関 係 理 事 者